

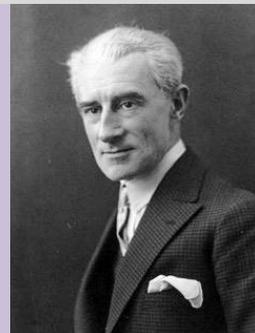
FINAL

## 新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』(10)

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！ ”



### フランス印象派の巨匠 ドビュッシーと ラヴェルによる近代ピアノニズムへの幕開き



ドビュッシー

ラヴェル

お陰様で今回で本シリーズも最終回となりますが、世紀末から第一次大戦前後まで活躍、その革新性によって近代ピアノ音楽に多大な影響を与えたドビュッシー(1862-1918)とラヴェル(1875-1937)の二人の検討を以て終わりと致したく。

常に並び評されるラヴェルより13歳年長だったドビュッシーにとって まず為すべきは従来圧倒的に主流だったロマン派音楽と断固決別し、それに取って替わる新たな画期的方向性を明確に打ち出すことでした。このための一つの指針になったのが 同じフランスを舞台に活躍中だった印象派の画家たちによる理念でした。それは 仮令音楽の場合であっても情景的なタイトルのもと 直接見たまま聞いたままの印象を諸々の手法で響きによって表現することでした。表現された印象での差異はあっても時にはドビュッシーに先行しながら同志として同じ路線を継承したのがラヴェルです。

今回ドビュッシーでは彼の出世作「版画」(1903)及び自他共に集大成との呼び声が高い「前奏曲集」巻1(1909-10)もしくは巻2(1910-13)から、ラヴェルでは印象派的手法では先輩ドビュッシーに先んじたといわれる作品「水の戯れ」(1901)と20世紀ピアノ音楽の最高傑作と評される「夜のガスパール」(1908)を取上げながら、二人の作品演奏のスペシャリストたち、ギーゼキング、フランソワ、B=ミケランジェリ 更にはヒテル、ポリーニ、アルゲリッチ、アムランらによって 出来れば技法の差異なども含めて聴き比べてみます。どうか ご期待ください。



### 我孫子オーディオファンクラブ (AAFC) 分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日 時 / 12月11日(日) 13:30~15:45

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 俊郎

参加自由・入場無料

問合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>